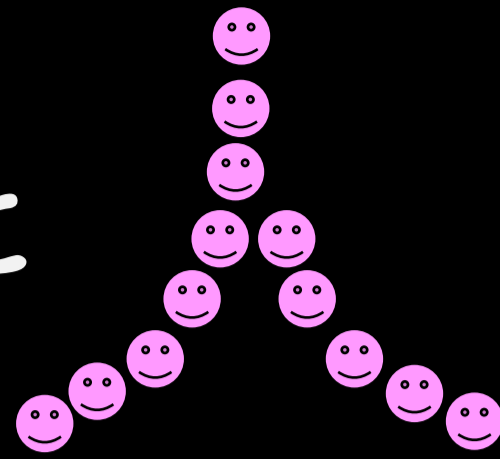


文学と



類学の融合



空とヒトをつなぐもの

人類の星や宇宙に対する関心は古い。人類が天体の位置や運行を都市建設や暦の作成に使っていた痕跡は古代遺跡に残されている。星や宇宙にまつわる神話・伝説・口頭伝承・謡に含まれる情報（ex.ハワイのチャント、古琉球やアイヌの歌謡etc.）も、民俗学・人類学の立場から盛んに研究されてきた。しかし、これらが天文学的見地から解釈される機会は少なかった。

この講演会は、古代遺跡や口頭伝承・文字記録を人類学者と天文学者が共同で掘り起こし、人類の宇宙観形成のメカニズムの根源を探求するための第一歩である。

2016年2月28日(日)13:00 開場

南山大学名古屋キャンパスR棟-R31

■入場無料、事前登録不要

■南山大学名古屋キャンパス

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18

地下鉄名城線八事日赤駅より徒歩8分

地下鉄鶴舞線いりなか駅1より徒歩15分

■お問い合わせ：南山大学人類学研究所

Tel 052-832-3111(代表)

E-mail ai-nu@ic.nanzan-ac.jp

HP <http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/JINRUIKEN/>



- ★ 13:30-13:35 挨拶：後藤 明
- ★ 13:35-14:35 講演：坂井 正人氏「古代アンデスの人びとは、天空に何を見たのか」
- ★ 休憩
- ★ 14:45-15:45 講演：海部 宣男氏「アジアの人々が見た星空と宇宙観」
- ★ 休憩
- ★ 16:00-17:00 パネルディスカッション「天文学と人類学の融合」
司会：後藤 明 パネラー：坂井 正人氏 海部 宣男氏 吉田 二美氏



坂井 正人氏

山形大学教授・ナスカ研究センター副所長。長きにわたり、南米ペルーの遺跡ナスカにて地上絵の調査に従事。



海部 宣男氏

国立天文台名誉教授・元ハワイ観測所長。沖縄の歌謡集『おもろそうし』の夜空の描写を天文学的見地から研究。



吉田 二美氏

国立天文台国際連携室専門研究職員。太陽系小天体研究に従事。アジアにおける星の神話収集にも携わる。



後藤 明氏

南山大学人類学研究所長。天文に関する考古学・民俗学の知見を扱う「天文人類学」の重要性を提唱し続けてきた。